

令和 7 年度 県立鉾田第二高等学校自己評価表

目指す学校像	課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びと、将来を見据えた系統的なキャリア教育を充実させて、一人一人が希望する進路の実現を図るとともに、地域社会との連携を推進し、地域振興に貢献するリーダーとなる人材を育成する地域に信頼される学校。			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力を育成する。 ・地域社会との連携を推進し、主体的に地域の活性化や振興に貢献する人材を育成する。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・授業等で、ＩＣＴ端末を積極的に活用して、学力向上を図る。 ・学校の教育活動全体で、生徒の自律心、人間関係調整能力、思いやりの心などを育成する。 ・体系的な進路指導の体制を構築して、生徒一人一人の希望する進路を実現する。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・主体的に他者と協働して学習・活動した経験がある、あるいは、意欲のある生徒。 ・希望する進路実現を目指して、継続的かつ計画的に取り組むことができる生徒。		
昨年度（令和６年度）の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
・農業科・食品技術科・総合学科ともに専門的な学習を生かした活動や地域と連携した活動に取り組んでいる。 ・一人一台端末を使用して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をさらに進める必要がある。 ・進路指導では、４年制大学から専門学校まで多様な進路希望に対応できる進学指導体制を構築する必要がある。 ・就職指導では、生徒が自分の適性を理解して、希望する就職先を主体的に決められるよう指導していく必要がある。 ・中学生や保護者に向けて教育活動を積極的に情報発信して、教育内容等の周知・理解促進が重要になっている。 ・働き方改革の推進では、教職員一人一人が恒常的に業務を見直し、引き続き、業務の効率化を図っていく必要がある。 ・生徒指導では、学校の教育活動全体で、生徒の自律心、人間関係調整能力、思いやりの心等を育成する必要がある。		特色ある学校づくり	・系列の専門的な学習を生かした取組や農業の６次産業化の学習などを通して、オリジナル商品の開発を１つ以上行うなど、学校の特色づくりを進める。 ・学校行事等で、地域との連携や、各系列・学科の連携による学びの相乗効果を図り、５回以上の販売会等を実施する。	A
		授業改善の推進	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を進めるとともに、基礎学力の向上を図る。 ・毎時間の授業において、一人一台端末を使用し、各学年のスタディサプリ課題を１００回以上行う。 ・教職員全員が相互授業参観５回、教科横断型の授業を１回以上実施する。 ・生徒の授業満足度の校内平均値の目標を、３.５(４点満点中)以上とする。	B
		希望進路の実現	・キャリア・パスポートを活用して、主体的に学びに向かう力を育てる。 ・生徒一人一人が自分の適性を理解して、早期に進路を決定して、希望する進路の実現を図る。 ・進路内定１００%、生徒の進路満足度８０%以上を目指す。	A
		教育活動などの積極的な情報発信	・年間３０回の新聞掲載を目標にしてマスコミに取材依頼する。 ・学校ホームページの教育活動や部活動等の記事を適宜更新し、月平均の閲覧数を３,０００回以上とする。	A
		働き方改革の推進	・教職員一人ひとりの業務について、見直し・工夫・改善・効率化を図り、負担軽減に努める。 ・会議の削減を図るとともに、完全退勤時間・ノー残業デー(１０日)を設定して、履行に努める。 ・１ヶ月あたりの時間外勤務４５時間となる教職員５%以下を保持しながら、働き方改革を進める。 ・ワークフローシステムの利用方法を全教職員が全員(１００%)習得し、業務の改善・労働時間の削減を図る。	B

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
学校全体 共通の取組	特色ある学校づくり		・授業での学習を生かして地域と連携した取り組みを推進する（インターンシップ、地域貢献活動、販売実習など）。	A		活動の事前・事後学習の充実。
			・専門教科では、学習分野の学習と連携した資格取得を推進する（教科「商業、家庭、福祉、農業など」）。	A		上位級合格者増。
			・共通教科では、基礎学力向上につながる資格取得を推進する（教科「国語、数学、英語など」）。	B		受検者・合格者増。
	授業改善の推進		・ICT（一人一台端末など）を積極的に活用して、授業改善を進める（協働的な学び、資料提供、課題提出など）。	B		ICTスキルの共有と向上。
			・ICT（一人一台端末など）を活用した体系的なキャリア教育の研究に取り組む。特に「総合的な探究の時間」の授業改善につなげる。 ・授業を通して、生徒が学ぶ楽しさを実感し、意欲的・自主的に学習に取り組む姿勢・態度を育成する。	B		研究成果の共有。授業改善につなげるための方策を一層拡げる。
教科指導	国語	基礎学力の向上	・生徒の学習実態の把握に努め、個に応じた指導の充実を図る。	A	A	・学力や日常生活、社会生活で必要となる言語能力の向上。 ・主体的な学びの実現に向けた授業づくり。 ・適切な評価方法や評価基準設定と担当者間の共有。
			・各科目で適切な言語活動を設定し、進路実現や社会生活に求められる表現力を育成する。	B		
			・副教材を活用し、各学年・年次と連携して生徒の語彙力向上に努め、資格取得を促す。	A		
		わかる授業への取組	・ICT機器を活用するとともに、教員間で効果的な指導方法や有用な教材の情報交換に努めたり、各種研修に参加したりする。	A		
			・教材や指導内容を精選して授業を進めるとともに、学習指導後の振り返りを行い指導の改善を図る。	A		
	地歴公民	基礎学力の向上	・定期的な確認テスト・小テストの実施や課題学習を通し、基礎学力の充実・定着化を図ると共に、自学自習の確立を図る。	A	A	・ICT機器を活用した授業展開。 ・自発的な活動を促す授業展開。 ・基礎学力の向上。
			・学習内容を理解させるため、きめ細かな指導を行うとともに、適宜質問の時間を設ける。	B		
		わかる授業への工夫改善	・教材研究の充実により、学習内容の精選及び明確化を徹底する。	A		
		進路に応じた指導の充実	・定期考査問題の内容への配慮及び課外・補習等の実施により、生徒の進路希望に応じた学習指導に努める。	A		
	数学	基礎学力の向上	・生徒の特性をふまえて教科書の精選を図り、個に応じた指導を図る。	A	A	・ICTを用いた、効果的な学習指導。 ・家庭学習の習慣化。
			・学習内容の理解を深めるため、生徒が問題を考察する時間を確保し基礎的な学力の定着を図る。	A		
			・アクティブ・ラーニング的な手法を取り入れ、ICT（タブレット・電子黒板など）の活用を推進し、生徒たちが主体的に学べるような授業を展開し、学習意欲を向上させる。	B		
			・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。	B		
			・個々の進路希望に応じた課題等を与える。	A		
		進路に応じた指導の充実	・学校設定科目において、生徒の進路希望に応じて、指導内容等を工夫し指導にあたる。	A		
			・教科内の連携を図り、新課程で変化した箇所を中心に指導方法を共有する。また、評価方法についての共通理解を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

教科指導	理科	基礎学力の定着	・小テスト等を実施し、定期的に生徒の学習実態を把握し、理解度に応じた指導を行う。	B	B	興味関心を引き出す工夫や継続的な実験の実施など、来年度以降も積極的な取り組みが必要である。
			・成績が不振な生徒に対して、適時評価の現状を情報共有し、きめ細かい指導を行う。	B		
			・観察や実験、対話的な活動などを通して、生徒が協働的に学習課題を解決しようとする姿勢を養う。	C		
		自然科学の現象に対する興味・関心を育む	・ICTを適切に活用し、生徒が学習課題を身近な問題として捉えることができるよう工夫する。	A		
	保健体育	運動技能の向上	・生徒一人一人に新課程に適した課題を設定し、計画的に運動を実践する。	A	A	・体育の実技授業でのより良いICT活用。 ・男女共習の工夫。 ・評価方法や評価基準の設定と共有。
			・体づくり運動やランニングなどの補強運動を取り入れながら実施する。	B		
		構成・協力・責任などの態度の育成	・互いにゲームのルールや技能を教え合える雰囲気作りをする。	A		
			・集団行動の重要性を理解し、他者と協力しやりとげる能力を育成する。	A		
			・能力に応じて、仲間と安全に留意して行えるルールを設定する。	B		
		生涯を通じて健康的に生活できる資質や能力の育成	・ICTの活用による資料や事例の提示を通して健康的に生活するための資質能力を育成する。	B		
			・学校行事等を利用して、生涯を通じて運動に取り組む資質を育成する。	A		
	芸術	教材の精選・研究と指導の工夫改善	・芸術を愛好する心情を養い、生徒の個性を生かせる教材の選択・研究を行う。	A	A	・教材の精選、ICT活用に必要な設備の整備。
			・主体的な学習活動の指導を研究・実践する。	A		
	英語	授業の工夫・改善	・ICTを活用し生徒の意欲や関心を引き出すと共に、英語力向上に繋がる実践的な活動を工夫する。	A	A	・基礎学力の向上。 ・評価方法や評価基準の設定と共有。
			・観点別評価について教科で協議し、評価の統一を図る。CAN-DOリストを活用した授業を展開する。	B		
		基礎学力の向上	・習熟の不十分な生徒に対し、必要な課題を与えたり補習をしたりすることで基礎学力向上を目指す。	A		
			・放課後課外や模試対策等を行い、基礎学力の定着を図る。また、英語検定への受験を積極的に勧め対策を実施する。	A		
		発信する能力の育成	・プレゼンテーションやスピーチなどの場を設定し、自分の気持ちや考えを相手に伝えたり、外に発信したりする能力を育成する。	A		
	家庭	基礎的・基本的な知識と技能(技術)の習得	・教科内での共通理解を図り、情報を共有し、わかりやすく統一された授業を展開する。	B	A	・来年度も引き続き、指導方法や評価方法等について、教科内の共通理解の徹底を図る。 ・ICTを有効的に活用した授業を展開できるようにする。
			・評価基準を明確にし、観点別に評価を行う。	A		
			・ICTの活用等の教科内相互研修による指導力の向上により、知識と技能(技術)の確実な定着を図る。	B		
		地域との連携	・地域の食文化研究と課題研究で、銚田市、JAと連携した授業展開を行い、学びを地域還元する活動を実施する。	A		
	情報	安全で衛生的な実習環境の整備	・施設・設備の定期的な清掃と点検を実施し、安全衛生管理を徹底する。	A		
		基礎的・基本的な知識及び技能の習得	・個人の学習理解度を把握し、きめ細かな指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。	B	A	・基礎力の定着を図り、情報技術の積極的な活用能力と社会に通用するモラルを養う。
		情報活用能力の育成	・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	A		
		情報モラルの育成	・法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養う。	A		

別紙様式 2 (高)

教 科 指 導	農 業	基礎的・基本的な知識や技術の習得	・生徒一人一人の多様な個性及び理解度に応じた授業と実験実習を展開し、基礎・基本を大切にしたいわかりやすい指導方法の確立に努める。 ・プロジェクト学習を主にした体系的な実験実習を取り入れ、生徒の知識・技術の定着を図り、人間性豊かな職業人育成を目指す。	A	A	・実習と販売会や講習会、自然体験活動を充実させるためにも農業科の共通理解と協力が必要。そのため定期的な会議等を開く。
		事故防止の徹底	・農場や実験室の環境整備並びに施設・設備や農業機械の点検整備を充実させる。 ・安全教育を主とした授業や実験実習を展開し、事故及びヒヤリ・ハットの防止に努める。	A		
		資格取得の推進	・生徒の目的意識を高め、小型車両系建設機械、フォークリフト等の資格取得を支援する。	B		
		環境教育の実践	・ポジティブリスト制度や農業生産工程管理（GAP）に沿った授業や実験実習を展開し、安心・安全な農産物の栽培法を定着させる。	B		
	食 品 技 術	基礎的・基本的な知識・技術の習得	・個別の特性や理解度に応じて、基礎・基本を大切にしたいわかりやすい指導方法の確立に努める。 ・タブレットや電子黒板などを効果的に活用し、視覚的な支援によって生徒の知識・技術の定着を図る。 ・生産物販売実習の充実を図ることで職業観を高め、地域で活躍する人材を育成する。	A	A	・進路や目標への意識を高めることができるようにする。 ・資格取得への意欲を高める。
		事故防止の徹底	・生徒の安全に配慮した実習を展開する。また、食品衛生に徹した実習を実践する。	A		
		資格取得の推進	・生徒の目的意識を高め、「危険物取扱者試験」等の資格取得を支援する。	B		
	商 業	基礎的・基本的な知識の習得	・学習の理解度に応じてきめ細かな指導や補習を実施し、基礎的・基本的知識の定着を図る。	A	A	・基礎知識の定着を図り、資取得を自信に繋げ、社会に通用する専門的な力を育成する。
		資格取得の奨励	・学習の成果として、資格取得を奨励し、合格率の向上を図る。	A		
		職業観の育成	・商業、農業の科目を履修し、6次産業について理解を深め、地域に貢献できる人材を育成する。	A		
	福 祉	基礎的な知識と介護技術の習得	・主体的・対話的な授業展開を実践するため、ICT等を活用し学習内容や方法を再検討する。	A	B	・職業人としてのマナーや礼節などを日々の授業のなかで育成する。
		実習を通した実践的な態度と職業観の育成	・実習の事前・事後指導を徹底し、実習の成果を発表させることで、事後の学習に反映させる。	A		
			・施設実習を通して、職業観や健康管理・マナー・礼節の大切さを身につけさせる。	B		
教 務	生徒の学習意欲及び基礎学力の向上を図る		・成績不振生徒に対しては、学年・教科と連携しながら、長期休業中や考査前に補習を行う。	A	A	・学校の現状に即した教育課程の編成を行う。 ・多岐にわたる業務の役割分担。
			・授業を大切にする意識を高める。学年と連携し、欠課時数等で指導を受ける生徒を少なくする。	B		
	各科・系列の特色を生かした教育課程の検討と運営		・本校の現状に即した、これからの本校の目指す教育課程を編成する。	A		
			・情報部と連携し、端末等を効率的に活用できる環境を整える。	A		
			・「総合学科」の生徒の履修計画の一助となるよう「産業社会と人間 学習ノート」を編集し直し、効果的に活用する。	B		
	生徒が自己実現を果たせる時間割の編成		・学年・年次との情報交換を密にし、生徒の進路実現を目指した時間割の編成をおこなう。	A		
			・時間割編成についての研修をとおして職員の共通理解を図る。	B		
	開かれた学校を目指し地域への情報発信		・ホームページ更新回数を増やし、各種媒体へ情報を提供し本校の活動状況を地域に発信する。	B		
			・ポスターや学校案内を作成し、各所に配布する。	A		
			・学校説明会を企画・開催し、本校の魅力を伝える。	A		
	行事等の円滑な運営		・各校務分掌とコミュニケーションを密にし、学校行事等の日程やそれぞれに伴う日課の調整を行い、学校運営を円滑に進める。	A		

別紙様式 2 (高)

情 報	一人一台端末の活用、情報機器の管理	・効率的に端末を用いて授業が行えるよう、情報提供を進める。 ・アカウント設定を行い、初期設定を含めサポートを行う。 ・ハード及びソフトの情報把握を適切に行う。	B	B	・一人一台端末の更なる活用のため、OSをChrome OSに統一する。 ・ハード及びソフトの管理に適切に対応する。
	校務支援システムの管理・運営	・情報更新を逐次行う。 ・校務支援システムの使用方法の問い合わせに対し適切に対処し、及び職員のスキルアップに努める。 ・教務部と連携する。	B		
	教育情報ネットワークの管理・運営	・本校ホームページの更新頻度を上げられるよう、呼びかけを行う。 ・情報リテラシーについての講習を行い、情報資産の重要性について職員の意識向上に努める。	B		
生徒指導	基本的生活習慣の確立及び自己指導能力の育成（校内外でのマナーの向上）	・遅刻ゼロ運動を継続する。段階的な指導を徹底する。スマホ・携帯のマナーを徹底する。	A	A	・一部の違反を繰り返す生徒に対し再発防止に向けた指導をする。 ・原付バイクの事故が年間で8件発生しており、引き続き未然防止のため指導を要する。 ・今年度は重大事態に至った例は無いが、継続的にいじめの速やかな把握に努める必要がある。
		・登下校指導による、挨拶の励行及び服装指導等を行う。校外においても制服を正しく着用させる指導の徹底を図る。また、公共の場所において正しい判断のもと行動できるようにする。	B		
	自転車・原付バイクや四輪車の安全指導	・原付バイク運転実技講習会や交通講話、安全点検を実施し、交通事故の悲惨さや運転手の責務等について認識させ、交通ルールを遵守させるとともに、交通事故の未然防止及び安全指導を行う。	A		
	SNS等のいじめ・誹謗中傷防止・早期発見	・いじめはどの生徒にも起こりうる問題であることを十分認識し、生徒の変化を注意深く観察し、声かけをして相談しやすい関係をつくる。	A		
特別活動	特別活動の活性化と自発的活動の促進	・生徒会活動や委員会活動の活性化。生徒達が積極的に活動できるような環境をつくる。各委員会が、年間計画案に基づき活動する。	A	A	・ボランティアの募集や連絡方法を改善する。 ・学校行事の日時を、部活動の事情や、天候の状況を加味して考慮する必要がある。特活部の教員の負担が大きいところがあったので、そこを全職員が協力して、学校行事を行う必要がある。
	積極的な部活動への参加と部活動環境の整備	・部活動加入率を高めるため、新入生の年度当初の見学会に必ず行かせることと、教員側も積極的な呼びかけをし、部員確保に努め活発な活動を図る。	A		
	学校行事の活性化と積極的なボランティア活動への参加促進	・施設、用具の充実を図り、運動部・文化部がより良い活動が行えるようにする。	A		
		・仲間への思いやりや集団の中での自己の役割を理解し、お互いに協力し合える態度を身につけさせる。	A		
		・学校行事それぞれの意義を理解させ、すべての生徒が積極的な参加を目的とした指導を展開し、各行事の成功へと結びつける。	A		
		・各種のボランティア活動参加募集の告知を徹底し、積極的な参加を促すようにする。	B		
進路指導	進路希望実現に向けた進学、就職指導の充実	・自己の活動や成長を確認できるようなキャリア・パスポートを作成していく。 ・自己実現に向けて将来への見通しや展望を図り、自己のキャリア形成に生かす態度を育成する。	B	B	・進路意識の涵養のための系統的な指導をする。 ・就職希望者の就職試験に向けて基礎学力を向上さ
		・進学希望者対象の課外授業を充実させ、ICTを活用して高い学力の育成を図る。	A		
		・就職希望者に対する面談指導を徹底するとともに、課外授業を充実させ ICT を活用して基礎力の向上を図る。	B		
		・生徒が主体となった活動への参加を促し、コミュニケーション能力の向上を図る。	B		

別紙様式2（高）

進路指導	キャリア教育による 進路意識の高揚	・進路講演会・出前授業等、効果的な進路行事の立案・実施に努める。	A		せる ・ICTを活用して、学習 習慣の定着を図り、基礎 学力の向上を図る。 ・探究活動の一環として資 格取得を促す。
		・各種の資格取得を短期目標に据えさせることにより、進路意識の高揚を図る。	B		
		・各種の職場体験等のキャリア教育の取り組みを通して、健全な職業観・勤労観の育成を図る。	B		
	進路にかかわるガイ ダンス・カウンセリ ング機能の充実	・進学・就職ガイダンスを実施して、進路に対する積極的な意識付けを図る。	A		
		・個別面談を充実させ、進路目標の随時見直しを図る。	A		
		・ICTを活用して生徒・保護者へ提供する進路情報の内容充実に努める。	B		
保健厚生	環境美化の維持	・定期的な安全点検や日々の清掃指導の徹底を図って校舎内外の安全・美化の実現に努める。	A	B	・生徒及び教職員が安全か つ健康に学校生活を送れ るよう、安全の確保・保 健衛生・学校環境美化に 努める。
	自己健康管理能力の 育成	・疾病・感染症予防、日常の生活における健康増進等について保健だよりを発行し、生徒の心身の健康に関する知識、管理能力を高め、生徒自身が健康的な生活に取り組める態度や能力を育成する。	B		
	緊急時の対応能力の 育成	・防災避難訓練をとおして訓練の必要性を認識させると共に、主体的な危機回避能力を育成する。 ・心肺蘇生およびAEDの教職員研修を実施し、緊急時に対応できる資質を養成する。	A		
図書	図書委員会活動の 活性化	・委員会の定例化をすすめ、係ごとの活動を円滑に行う。	A	B	・各教科や総合的な探究の 時間で利用できる書籍を 各担当と連携して提供し ていく。 ・昼休みや放課後に他の校 務が入ると図書館業務に 専念できないので、専任 の学校司書の配置を希望 する。
		・スタッフマニュアルをもとに図書委員すべてが役割を自覚し積極的に活動する。 (図書だよりの発行・館内ディスプレイや展示の工夫・蔵書点検など)	A		
	図書館の利用・活用 の推進	・教科・年次(学年)・他分掌との連携により、読書活動を啓発して貸出数を増やす。	B		
		・配架・案内表示などの館内の環境を整備する。	A		
		・購入希望図書の調査を実施する(教員・生徒)。	A		
		・教育課程の展開に即応した資料や進路関連図書の充実に努める。	B		
	図書部運営の円滑化	・スタッフマニュアルをもとに担当職員すべてが係の仕事に関わる。 ・学校司書の配置。	B		
渉外	学校・家庭・地域社会・関係機関との連携	・ホームページ等を通し、生徒・学校の活動状況を理解してもらい、家庭・役員・地域社会・関係機関の学校への関心や協力体制を高める。	B	B	・今後のPTA活動に向けての内規、会則等の見直し。
教育相談	スクールカウンセラ ー(SC)を活用した 教育相談体制の充実	・教員間の連携を密にし、生徒が抱える問題を早期に発見し、指導方針を立て対応するように努める。	B	A	・教員間の円滑な情報共有 。 ・いじめ、友人関係のトラ ブルの未然防止を図る。 ・健康観察アンケート実施 方法。 ・生徒対応に役立つ教員研 修会を実施する。
		・SCと教員の連携や情報共有が円滑に行える体制の確立を図る。	A		
		・「教育相談だより」を発行し、生徒や保護者にSC配置の相談室を知らせるとともに、気軽に利用できる相談室の整備に努める。	A		
	教育相談における教 員の資質や能力の向 上	・教育相談に関する情報の提供と、校内研修会の充実に努める。	A		
		・教員の相談室利用を促し、SCとの相談や助言を通して、生徒への関わり方などについて改めて考え学ぶ機会の確保に努める。	A		

別紙様式2 (高)

農 場 部	基礎的、基本的な知識と技術・実践力習得	・体験的教育活動をととして、勤労意欲の醸成と基礎的な知識及び技術に基づく実践的な能力態度を育成する。	A	A	・体験的な活動の場を多く設ける(体験学習会等を増やしていく)。 ・就農者及び農業系大学への志願者数を増やす。 ・対外的な活動や外部との連携のため、農業クラブプロジェクト発表会等へ積極的に参加し、「計画の立案」「実行」「評価と改善」を実践する。 ・対外行事や外部連携を実施することで、生徒の授業・実習の満足度を高めていく。 ・スマート農業に関する学習や研修の活性化を図り、最先端の技術について学ぶ。
	農業クラブ関係行事や校内外の各種行事への積極的参加	・農業教育の対外的な活動を通し、専門教育の成果を広報するとともに、各種イベントへの参加などにおいて地域社会との連携を図り、生徒の社会的資質向上に努める。	A		
		・体験的専門教育を基とした学校農業クラブ活動を実践し、科学性・社会性・指導性の醸成を図る。	A		
	農業専門教育の充実	・スマート農業の動向に対応した指導を目指し、積極的に研修へ参加し教職員の更なる資質向上に努める。	B		
1 学年 ・年次	基本的生活習慣の確立	・欠席、遅刻、早退の回数を抑える。	B	B	・基本的生活習慣に関して課題の残る生徒に、継続指導する。 ・スタディサプリを活用し、自主的に学習に取り組むことを習慣化できるよう指導する。 ・選択したコース、系列の授業に、進路実現の意識をもって取り組むよう継続的に指導していく。
		・時間厳守、チャイム着席を徹底させる。	B		
		・頭髮服装指導で、身だしなみの大切さを理解させる。規範意識の向上を図り、マナーやルールを守れる生徒を育てる。	B		
	家庭学習の習慣化と学力向上	・家庭学習の定着に向け、課題や小テストを設ける。	B		
		・授業等で I C T 端末（スタディサプリなど）を積極的に活用して、学力向上を図る。	B		
		・各種検定試験を推奨し、学校・家庭を問わず学習習慣を身につけさせる。	B		
	進路指導の充実	・授業を通して、自分の将来を考える機会をつくり、科目、コース、系列選択の一助とする。	B		
		・生徒個々のニーズに沿った進路実現に向け、卒業生や進路に関する講話等、指導の場面を設ける。	A		
2 学年 ・年次	基本的生活習慣の徹底	・欠席、遅刻、早退の回数を抑える。遅刻回数年間10回以上の生徒を30人以下に抑える。	A	A	・時間厳守を徹底して指導する。基本的生活習慣、頭髮服装、規範意識について、一部の乱れのある生徒には、家庭と連携を図り、継続して指導する。
		・時間を守る意識を定着させ、チャイム着席を徹底させる。	A		
		・頭髮服装・立哨指導だけでなく、学校生活のあらゆる場面で継続的に声かけや指導をし、身だしなみを整えさせる。	A		
		・規範意識の向上を図り、マナーやルールを守ったり後先を考えて行動したりする意識を身につけさせる。	B		

別紙様式2（高）

	家庭学習の習慣化と学力向上	・家庭学習の定着に向け、スタディサプリの課題配信を定期的に行い、確実に提出をさせることで、学力向上を図る。	A		・入学試験や就職試験対策としてスタディサプ리를より活用し、家庭学習に取り組むように働きかけていく必要がある。
		・授業等でICT（Google Workspaceやスタディサプリ）を積極的に活用して、学力向上を図る。	B		
		・各種検定試験を推奨し、学校・家庭を問わず学習習慣を身につけさせる。1人1つ以上の資格取得を目指す。	B		
	進路指導の充実	・各授業や模試などを通して、自分の将来を考える機会をつくり、進路実現の一助とする。	B		
		・生徒個々のニーズに沿った進路実現に向け、進路に関する講話、ガイダンス等を年間2回程度実施する。 ・生徒が希望進路に向けて具体的な計画を立てられるように、自己理解を深める機会を設けたり、丁寧に面談を行ったりする。	A		
3学年 ・年次	最高年次としての自覚と基本的生活習慣の確立	・マナーやルールを遵守し、社会人としての責任ある行動や言動ができるように育成する。	A	A	・生活面は、日常的に声掛けを継続する。特に交通事故には十分に注意を促す。 ・進路決定後の進路変更が生じないよう、面談の充実や保護者との連携を強化する。 ・学力向上や資格取得の推奨に努める。 ・家庭とは小さな事でも情報を共有し、相互理解と連携を図る。
		・時間厳守・期限厳守を徹底させる。	B		
		・自転車・バイク・自動車の交通安全指導の徹底と事故防止に努める。	B		
	進路実現のための学習指導と進路指導の強化	・授業等でICT（スタディサプリなど）を積極的に活用して、学力向上を図る。	A		
		・進路希望にあわせた指導の充実を図り、各種模擬試験や学校説明会、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。	A		
		・進路に関する個人面談や面接指導を充実させる。	A		
	生徒との積極的な関わりと家庭との連携	・各種資格・検定試験等への積極的な参加をよびかける。	B		
		・家庭と連携・情報の共有化を図り、保護者との相互理解の上で進路・生徒指導を円滑に進め進路実現を目指す。	A		

※評価規準

- A：達成できた
- B：ほぼ達成できた
- C：あまり達成できなかった
- D：達成できなかった